

問1 平安時代の政治体制の変遷について、初期、中期、後期の順に出来事を並べたものとして正しいものはどれですか。（2019年 新潟

県公立入試 類似）

1. 桓武天皇が坂上田村麻呂を東北に派遣した時期、藤原氏が摂政・関白として実権を握った時期、白河上皇が院政を始めた時期
2. 白河上皇が院政を始めた時期、藤原氏が摂政・関白として実権を握った時期、桓武天皇が坂上田村麻呂を東北に派遣した時期
3. 藤原氏が摂政・関白として実権を握った時期、桓武天皇が坂上田村麻呂を東北に派遣した時期、白河上皇が院政を始めた時期
4. 桓武天皇が坂上田村麻呂を東北に派遣した時期、白河上皇が院政を始めた時期、藤原氏が摂政・関白として実権を握った時期

問2 遣唐使の派遣によってもたらされた平安文化の始まりに関する記述として、適切なものはどれか。高野山に金剛峯寺を建て真言宗を広めた空海と対比される、比叡山に拠点を置いた人物と宗派の正しい組み合わせを選択しなさい。（2018年 埼玉県公立入試 類似）

1. 最澄 — 天台宗
2. 最澄 — 真言宗
3. 空海 — 天台宗
4. 行基 — 浄土宗

問3 平安時代中期、藤原氏が自身の娘を天皇の妃とし、その子を天皇に立てることで政治の実権を握りました。天皇が幼少のときはその後見人として、成人してからはその補佐役として政治を行ったこの体制を何といいますか。（2024年 埼玉県公立入試 類似）

1. 摂関政治
2. 院政
3. 律令政治
4. 幕府政治

問4 白河天皇が始めた「院政」という政治体制の説明として、最も適切なものを次の中から選びなさい。（2016年 山形県公立入試 類似）

1. 天皇の位を退いた人物が、天皇家の当主として摂政や関白の力を抑えて実権を握る政治。
2. 天皇が幼少のときに、母方の親戚である藤原氏が代わって政治を行う政治。
3. 征夷大將軍が幕府を開き、守護や地頭を任命して全国の土地と武士を支配する政治。
4. 天皇自らが政治の全責任を持ち、貴族の合議制を廃止して独裁的に進める政治。

問5 平安時代初期、桓武天皇から軍の最高指揮官である「征夷大將軍」に任命され、東北地方で朝廷に抵抗していた蝦夷（えみし）を服属させた人物は誰ですか。（2026年 滋賀公立入試 類似）

1. 坂上田村麻呂
2. 阿部比羅夫
3. 源頼朝
4. 平清盛

問6 11世紀後半の日本では、それまで長く続いた摂関政治に代わり、天皇が位を退いてからも「上皇」として引き続き政治の実権を握る新しい政治形態が始まりました。この政治を始めた人物として正しいものは誰ですか。（2025年 岡山公立入試 類似）

1. 白河天皇
2. 聖武天皇
3. 桓武天皇
4. 持統天皇

問7 日本の歴史を時系列で整理した際、飛鳥時代から平安時代末期までの約500年間は、一つの大きな時代枠として定義されます。この期間が終了し、次の時代区分へと移行する要因となった歴史的な出来事として最も適切なものはどれですか。（2017年

秋田県公立入試 類似）

1. 武士が台頭し、政治の実権が貴族から武家へと移り変わったこと
2. 仏教が伝来し、聖徳太子によって冠位十二階が制定されたこと
3. 鉄砲が伝来し、織田信長らによって天下統一が進められたこと
4. 大政奉還が行われ、明治政府による中央集権国家が成立したこと

問8 平安時代中期の政治動向を記した記録において、幼少の天皇のときには摂政として、天皇の成人後も実質的な指導者として権勢を振るい、藤原氏の全盛期を築いた人物は誰ですか。（2020年 神奈川県公立入試 類似）

1. 藤原道長
2. 藤原不比等
3. 藤原頼通
4. 藤原清衡

問9 日本の古代政治の変遷を記した年表において、律令に基づく政治のしくみが整えられた時期の次に来る、藤原道長が活躍した「時代の特色」として最も適切な説明はどれですか。（2019年 福岡県公立入試 類似）

1. 天皇との親戚関係を背景に、有力な貴族が摂政や関白の職に就いて政治を主導した。
2. 位を退いた天皇が上皇となり、摂政や関白を排除して政治の実権を握った。
3. 武士が政治の表舞台に現れ、土地の支配をめぐる争いを解決するために幕府を開いた。
4. 実力のある戦国大名が各地を支配し、統一政権を目指して激しい抗争を繰り広げた。

問10 藤原頼通が建立した平等院鳳凰堂と、室町時代に足利義政が建立した慈照寺銀閣（銀閣）を比較した説明として、平等院鳳凰堂の特徴を正しく述べたものはどれか。（2018年 鳥取公立入試 類似）

1. 禅宗の影響を強く受け、書院造と呼ばれる簡素な武家文化の様式を取り入れている。
2. 阿弥陀如来を祀り、華麗な装飾や池を中心とした配置によって極楽浄土を表現しようとした。
3. 大陸との貿易で得た富を象徴するため、建物の外壁全体に金箔を貼り巡らせている。
4. 一層目が住宅風、二層目が禅宗様式の仏堂という、異なる文化が融合した二層構造である。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 桓武天皇が坂上田村麻呂を東北に派遣した時期、藤原氏が摂政・関白として実権を握った時期、白河上皇が院政を始めた時期	平安時代初期には桓武天皇が平安京へ遷都し、蝦夷征伐のために坂上田村麻呂を征夷大將軍に任じました。中期になると藤原道長らによる摂関政治が全盛期を迎え、後期には藤原氏の勢力を抑えるために白河上皇が院政を開始しました。政治の実権が「天皇」から「藤原氏（貴族）」、そして「上皇」へと移り変わった歴史的背景を理解することが重要です。
問2	<b>答え 1</b> 最澄 一 天台宗	平安時代初期の新しい仏教は、奈良時代の政治に関与した仏教から離れるため、山の中に寺院を建てて修行を行う「山岳仏教」としての特徴を持ちました。最澄が比叡山に延暦寺を建てて開いたのが天台宗であり、空海が高野山に金剛峯寺を建てて開いたのが真言宗です。最澄の「最」と比叡山の「比」をセットで覚えるなど、混同を防ぐことが重要です。
問3	<b>答え 1</b> 摂関政治	藤原氏が天皇の母方の親戚（外戚）という立場を利用して、摂政や関白の職を独占した政治形態を指します。11世紀の藤原道長・頼通の親子の時代に全盛期を迎えました。これに対し、天皇が位を譲った後に上皇として行う政治を「院政」と呼び、区別する必要があります。
問4	<b>答え 1</b> 天皇の位を退いた人物が、天皇家の当主として摂政や関白の力を抑えて実権を握る政治。	院政は、現職の天皇（在位中の天皇）の後見する立場にある上皇が、政治の決定権を握る仕組みです。これにより、天皇の補佐役である摂政や関白の職務を形骸化させ、特定の貴族に権力が集中するのを防ぎました。白河・鳥羽・後白河の三代の上皇によって約100年にわたり強力に推進されました。
問5	<b>答え 1</b> 坂上田村麻呂	桓武天皇は平安京への遷都とともに、律令国家の支配を広げるため東北地方の平定に力を入れました。この時、大軍を率いるリーダーとして起用されたのが坂上田村麻呂です。彼は蝦夷の首長であったアテルイを降伏させ、胆沢城（現在の岩手県）を築くなどの功績を挙げました。阿部比羅夫は飛鳥時代に東北へ派遣された人物、源頼朝は鎌倉幕府を開いた人物です。
問6	<b>答え 1</b> 白河天皇	1086年に白河天皇が幼い堀河天皇に位を譲り、上皇となった後も「院」において実権を握り続けたことが院政の始まりです。これにより、天皇の外戚として権力を振っていた藤原氏（摂関家）の影響を抑える狙いがありました。聖武天皇は奈良時代の東大寺建立、桓武天皇は平安京遷都、持統天皇は飛鳥時代の藤原京遷都で知られる人物です。
問7	<b>答え 1</b> 武士が台頭し、政治の実権が貴族から武家へと移り変わったこと	飛鳥時代から平安時代までの「古代」は、律令制度や貴族政治を基盤としていました。しかし、12世紀末の平安時代末期になると、軍事力を持つ武士が政治的に重要な役割を果たすようになり、鎌倉幕府の成立をもって本格的な武家政治の時代である「中世」へと移り変わります。このように、支配階級が貴族から武士へ交代したことが時代区分の大きな境界となっています。
問8	<b>答え 1</b> 藤原道長	藤原道長は、自分の4人の娘を次々と天皇の后に送り込み、天皇の母方の祖父（外祖父）という立場を利用して政治の主導権を握りました。「この世をば 我が世とぞ思う 望月の…」という有名な歌は、彼が摂政として、また外戚として最高権力を手に入れた喜びを詠んだものとされています。
問9	<b>答え 1</b> 天皇との親戚関係を背景に、有力な貴族が摂政や関白の職に就いて政治を主導した。	律令制度による中央集権的な政治が変化していく中で、平安時代中期には藤原氏が天皇の補佐役である摂政や関白を独占する摂関政治が確立されました。藤原道長はこの体制を最も強固にした人物であり、貴族が政治の中心を担ったこの時代の大きな特徴となっています。
問10	<b>答え 2</b> 阿彌陀如来を祀り、華麗な装飾や池を中心とした配置によって極楽浄土を表現しようとした。	平等院鳳凰堂は平安時代の貴族文化を代表する建築で、浄土信仰に基づき、池の中に建物が浮かぶような宮殿風の造りが特徴です。一方、足利義政の銀閣は、簡素さを重んじる東山文化（室町時代）の代表例であり、禅宗の精神や後の日本住宅の原型となる書院造が特徴であるため、建立の背景や様式が異なります。